

<自由集会のご案内>

自由集会 日時：6月7日(水) 18:45～20:45

会場：当日ご確認ください。

自由集会は、討論会参加者ならどなたでも、関心のあるものにご参加頂けます。ぜひ、ご参加ください。
会場は当日ご確認ください。

自由集会1「教えてください！あなたの研究座右の書！」

オーガナイザー：水川薫子(農工大、代表)、宇田川理(国環研)、遠藤智司(大阪市大)、
小栗朋子(国環研)、頭士泰之(産総研)、水川葉月(北大)

同じ分野にいても、それぞれがどんな本を読んでいるのかを知る機会はありません。そこで本自由集会で環境化学にまつわる本を紹介し合って共有する会を開催します。自分が影響を受けた本、これは役に立つぞという本、環境化学な内容じゃないけれど研究するなら知っておくといいい本などなど、おすすめの本をぜひ教えてください！一般書から専門書までジャンルは問いません。3分程度でおすすめ本を紹介してくださる方を広く事前募集しますので、ご興味のある方は4月末日までに農工大 水川薫子 (mzkako@cc.tuat.ac.jp) までご連絡ください。もちろん聴講参加のみの方も大歓迎です。

自由集会2「水質検査の現状の課題と将来のあり方について考える」

オーガナイザー：小林憲弘(国立医薬品食品衛生研究所)

近年の水道法の改正によって、水質検査のあり方は大きく変わってきました。より効率的で簡便かつ高精度な検査法が多く開発され、質量分析による一斉分析法が検査の主流となってきた一方で、「水道水質検査方法の妥当性評価ガイドライン」が通知されたことにより、各検査機関は自らの検査精度を評価した上で検査することが求められています。また、未規制物質も含めた存在実態を把握するため、スクリーニング分析法が水質検査に適用され始めています。ここでは、水質検査に関わる全ての方々(行政機関、検査機関、研究機関、民間企業等)を対象として、水質検査の現状の課題と将来のあり方について意見交換し、水道水の安全性を確保するために何ができるかについて考えたいと思います。

自由集会3「環境化学でオープンサイエンス」～あなたのデータを活用しませんか？～

オーガナイザー：上野大介(佐賀大学、代表)、家田曜世(国立環境研究所)

研究データを一般に公開することで学術研究を発展させる「オープンサイエンス」が国際的な発展をみせており、内閣府は「我が国が今後早急に取り組むべき事項」と位置づけ検討を重ねています。これからの環境化学分野の発展に向けて、どのように「オープンサイエンス」に取り組んでいくべきでしょうか？第一線でご活躍の研究者とデータの公開を望む一般の方をお招きして、今後の具体的な取り組みについて議論できればと考えています。

自由集会4「国際的な環境情報の共有」

オーガナイザー：中野 武(大阪大学環境安全研究管理センター)

海外の研究者から、世界各地の環境の状況を報告していただきます。学生、若手研究者、留学生の皆さん、英語で自分の研究を紹介してみませんか？いきなり国際会議では、ハードルが高いと思われるあなたも参加してみませんか？発表時間は3分以内、パワーポイント、スライド3枚で皆さんの研究のエッセンスを紹介してください。6月6日までに、中野宛 (ntakeshi@jrl.eng.osaka-u.ac.jp) にスライド3枚を送付ください。この自由集会を手伝ってみようという方、また聴講のみも歓迎です。その旨お知らせください。

自由集会5「事故・災害時における緊急環境調査に向けて」

オーガナイザー：日本環境化学会 災害時調査手法部会（仮称）

中島大介（国立環境研究所）、中田晴彦（熊本大学）

大地震、洪水などの災害発生によって生じる有害物質の揺曳、それに伴う環境汚染の監視に関し、防災基本計画や国土強靱化計画にその必要性が明記されている。しかしその調査体制や調査手法に関しては必ずしも十分な状況にはなく、東日本大震災や熊本地震での経験から、いくつかの課題が浮かび上がってきている。そこで日本環境化学内に、大規模災害時における有害化学物質の環境流出と汚染状況を迅速に調査・解析するための手法の開発とその情報共有、発災時における学問的助言やサポートを目的とする活動グループの設立を準備している。本自由集会では、大規模災害時等の環境化学分野の役割と責任について、東日本大震災や熊本地震等における生の声を踏まえながら自由に意見公開する場としたい。

自由集会6「生物応答を用いた排水管理手法の今後について」

オーガナイザー：藤原尚美（(株)神鋼環境ソリューション）、勝又政和（浜松ホトニクス(株)）、新野竜大（(株)LSIメディエンス）、山本裕史、(国立環境研究所)、鏑迫典久（国立環境研究所）

「生物応答を用いた排水管理手法」は、環境省や産業界を中心に、その国内での運用等についての検討が進められています。一方、各事業所や自治体レベルでの取り組みの中で生物応答試験が利用され始めています。本集会では、「生物応答試験を利用した排水の化学物質管理を推進するために、今、何ができるか？」を主テーマに使用事例を含めた自由な議論を展開したいと考えています。聴講参加のみの方も大歓迎です！